

目的 人の毛髪の成長や形態的性状に関係する因子には、遺伝的要因，栄養状態，精神的ストレスなどが存在し複雑多様である。今回私たちは、上記要因の1つである栄養摂取状態が比較的定量性の高いことに着目し、健康な人の毛髪を材料として、その形態的性状と被検者の栄養摂取の状況や健康状態との関連を検討することを目的として、1年間継続的に栄養調査および毛髪検査を実施した。

方法 実験にあたっては、本学家政学科2年生のうちから24名を抽出し、2月，6月，9月，12月の4回にわたり5日間の栄養調査を行い、同時期に毛髪採取も行った。採取部位は旋毛から前方へ7 cm、後方へ7 cmの位置の2か所とし、それぞれ約30本を根元部分よりカットし被検毛とした。脱毛採取については、成長期毛の採取と同時期およびその中間の時期に行い、2日間のブラッシング時に抜けた全ての毛髪を回収し被検毛とした。毛髪の測定項目は、毛小皮の厚さ，断面積，断面積に対する毛小皮の割合（毛小皮指数），成長速度，脱毛数，毛幹の径／毛球の径 $\times 100$ ，および異常毛根率とし、栄養調査項目と毛髪測定結果との間の相関関係、および年間変動等について調査した。

結果 栄養と毛髪との関連については、年間4回の実験期間を通して、常に相関の認められた項目はない。毛髪の性状については、4回の実験を通じて変動は少なく、値はほぼ一定していた。今回の実験により得られた結果から、年令，性，生活環境，健康状態のおよそ一致している健康な本学学生の食生活において、栄養摂取上の変動は、毛髪の形態に明らかに検知し得るほどの影響を及ぼしていない可能性が考えられる。